

南アルプス全山縦走北上 Party 合宿報告書・行動記録(合ワソ用)



文責：国際関係学部 3 回生
松岡駿

<はじめに>

我々、立命ワソゲルは今年で創設 60 周年を迎える。

その記念すべき年に、過去の山小屋完全自力建設とまではいかないまでも、何か大きな山行をやりたいと思っていたので、今回ワソゲルの合宿の中ではかなり久々に 2 週間を超える縦走を計画した。

現立命館大学山岳部副部長でワソゲル OB の佐々木さん曰く「2 週間超えの合宿は史上初なのでは？」と言われたが、何分、がさつで大雑把な会体質を従来持つ当会には記録が残っているはずもなく、照会することはできなかった。(そもそも設立当初は立命館大学に登録すらされていないサークルかどうかとも怪しい団体であったので、仕方ないといえば仕方ないが・・・)

ということなので、25 年くらい前に何かそういう大きな山行ぐらいやっているだろうという勝手に決め付けることにした。

合宿に行く前は、2週間山に居る姿など想像もつかなかったが、終わってみればあつという間であった。

控えめに言っても、立命ワンゲルの活動や意識レベルは他大のワンゲル・山岳部と比して圧倒的に劣っている。

こういった長期縦走をやるまでに少しばかりでも前進できたことは去年の今頃は誰も想像していなかったであろう。

私がここまでレベルを底上げするまでに、テコ入れや改革に一年もかかってしまいお恥ずかしい限りであるが、次代の役に若干でも立てたかと思うと、主将冥利に尽きる。

そもそもなぜ今回南アルプスを目標に設定したかと言うと、話は、知見先輩、鈴木先輩に続いて実に5年ぶりに意を決し参加した去年の国立登山研修所夏山リーダー研修会まで遡る。

その研修で一番下の班である7班に所属した私は、それは悔しい思いをしたのをはっきりと覚えている。

周りのパーティメンバーにまったくついていけないわ、先生には目をつけられるわ、馬鹿にされるわと散々であった。(それでも、春山リーダー研修でその苦汁をおかわりするぐらいには、研修は、もちろん大変充実したものであったのだが・・・)

研修終わりに、余りに情けない自分の姿を卑下しつつ、杉坂先生に、「僕たちのような弱小クラブが強くなるにはどうしたらいいのでしょうか？何か山域などあれば、是非教えていただきたいです！」と質問した。

今思えば、どうやったら頭良くなりますか？などと中学受験前に聞いてくる小学生ぐらいアホな質問しているなあと、それはそれで自分の頭の悪さに悲しくなってくるのだが、ありがたいことに、杉坂先生は、普段のように妙に考え込んだ顔で顎をさすりながら、こう答えてくださった。

「南アルプスだな。一気にとかでなくてもいいから、全部行け。あそこは今のお前でも、行けるし、いい修行になるぞ。」

その日を境に、3回生の夏合宿は南アルプスを一気にいってやろう、そのために一年間を使うと心に決め、今に至る。

杉坂先生の言葉がなければ、去年のように立山三山周遊を夏合宿などと称して実施するレベルにまだ甘んじてしまっていたかもしれない。

ある意味で、恩師である。(多分、というか絶対杉坂先生はまったく覚えていないだろう。)

また、関学ワンゲルが雪崩ネットワークと共催していた雪崩リスクを考える会で、広瀬先生に話しかけられ色々短いながらも話す中で、「ワンゲルだったらまずは担いで歩けて話だよな。」とはっきり言われたのも、今回の計画に影響している。

以上が、やや想像性、独創性を欠くことにはなってしまったものの、南アルプス全山縦走を目標に設定するに至った理由である。

南下ではなく、北上を選択したのは、南下すればするほどエスケープルートが少なくなり山小屋の数も少なくなっていくため、今のパーティレベルでは、行程後半に、より安全圏に近づいていくスタイルの方が無難だろうと判断したためである。

この後の詳細な行動記録や振り返りもほぼ備忘録的で雑多な文になり、読みづらいことこの上ないかと思いますが、ご理解いただければ幸いです。

<日程>

【予定】2016年9月5日~21日：15泊16日

予備日：5日

↓

【実際】2016年9月7日~25日：17泊18日

予備日：3日使用

<パーティメンバー>

PL：国際関係学部3回生松岡駿(主将)

SL：経済学部3回生栗原望(主務)

装備：文学部2回生亀坂岳広(会計)

食当：理工学部1回生河田健志

⇒当初、5人パーティを想定していたが、パーティメンバー候補2名共が辞退したため、4人という何とも具合の悪い人数で実施することとなってしまった。

<合宿の目的>

来期、登攀や藪こぎを伴った合宿が行えるように登山の大前提である「担いで歩く」ということを徹底した合宿を実施することで、自分たちのレベルを確認し、一段階上げるため。

<合宿の目標>

二週間を超えた長期縦走を達成し、お遊びハイキング部などと揶揄される立命ワンゲルを「ワンゲル」として成立させると共に、今後の合宿レベルの底上げを図る。
新人合宿よりテーマにしていた生活技術の積み重ねの結晶を感じさせる山行にする。

<合宿前の取り組み>

8/12：六甲全山縦走トレーニング

⇒長い行動時間と長距離歩行に慣れるために実施。

(※亀坂は大学の小集団クラスのフィールドワークのため欠席。)

8/17：歩荷トレーニング@比叡山

⇒35~40kgを背負う直前調整の歩荷トレを行った。

(8/21~29：南東北・飯豊連峰合宿)

⇒台風9, 10, 11号の日本上陸とPL栗原の体調不良の影響で、劔岳PWへと代替された。

9/1：合宿前山行ミーティング@立命館大学琵琶湖草津キャンパス

⇒地形図の読み込み、山城、気候特性の調査、食糧計画の確認、エスケープルートの下調べ、バス・鉄道会社・タクシーなどの運行情報・予想金額、日の入りや日の出、水場などを入念にチェックした。

(※亀坂は文登研派遣中だったため、欠席。後日、共有を行った。)

<携行食糧一覧>

※19泊20日分の食料を今回持参した

9/8~9/27 朝食：フルーツグラノーラ(100g)、スキムミルク(適量)、ハチミツ(目安20g)

9/8~9/27 昼食：アルファ米握り飯、サバイバルパンなど腹持ち、日持ちの良いもの

9/8~9/27 夕食：アルファ米、フリーズドライ食品2袋分、フリーズドライスープ1袋分、フリーズドライデザート(あれば・スキムミルクを使用する場合は多めに持参した。)

アルファ米食品はジップロックなどに種類ごとに固めてゴミを減らす工夫を行った。

嗜好品：ココア、カフェオレ、シュガーなど、一人一日2回以上飲料できる量を持参。

(砂糖は一杯につきスティック3本以上は入れることができるように多めに持参。スキムミルクを使用する場合は多めに持参した。バターなど溶かして飲むのも良いと伝えしたが、その際携行方法に注意することを指示した。)

行動食：全行程合わせ、35000kcal以上になるよう持参することで決めた。

以上の食料品は、もちろん個人に応じて、量を調整した。

いずれにせよ、一週間目以降のシャリバテを防ぐよう計画・持参することを皆で話し合い徹底した。

⇒カロリー云々だけを重視するよりも、もっとバリエーションを増やしたほうが、長期は精神的に楽になるのではないかと感じた。食は単に生きるために食べるだけでなく、団欒や楽しむことも重要であるという保健体育で習ったことを22歳になって思い知ることになるとは思わなかった。情けない話である。カロリーメイトだけを行動食のメインに据えていた河田とイカフライだけを行動食のメインに据えていた自分は飽きがくるのが早く、辛かった。結果的に、乞食のように栗原くんにもちょこちょこ色々貰うハメになった。情けない話である。(2回目)

また、冬季の間に、乾燥野菜を作る試みをしていれば、もっと費用が安く済んだら

う。河田がプレ夏八ヶ岳合宿後に人参と白菜の乾燥野菜を作ってみたらしいが、人参は夏でもできたらしいので、水分量の少ない根菜系であれば、夏でも時間があれば、作れるかも知れない。試してみる価値はあるだろう。

<携行装備一覧>

携行燃料 OD 缶大×8(プリムス):2 個/1 人

⇒当初の予定は3 個/1 人であったが、多すぎるのでは?ということで、一個合宿直前に減らすことを PL と SL の判断で決定した。

CB 缶×8(SOTO) : 2 本/1 人

携行テント 4 人用 1 張(モンベル・ステラリッジ 4)

⇒会所有のテントが6 人用 1 張(エスペース)、3 人用 1 張(エスペース)、4 人用 1 張(モンベル)の三張りしかないため、今回は軽量化も兼ねて、多少窮屈だが、一番新しいモンベルの4 テンを使用することにした。

<団体装備振り分け>

「松岡」 4 テンポール(モンベル)・G ストープ・山ラジオ・天気図 (20 枚)・お玉・高度計・テント予備張り綱×4・ポールスリーブ(モンベル)・アウトドア用携帯浄水器(ソーヤー)

「栗原」 4 テンフライ(モンベル)・ガスヘッド大×1(プリムス・分離式)・ロックハンマー

「河田」 コッヘル中×2・やかん(900ml)・ポリタンク(5L)・ツェルト 1 張・ガスヘッド中×1(プリムス)

「亀坂」 ツェルト 1 張・4 テン本体(モンベル)・ガスヘッド中×1(プリムス)・ペグ 1 セット(22 本)

⇒劔岳 PW で試用してみて実用性が確認できたので、テントマットとグランドシートをオールウェザーブランケットで代用することで幾許かの軽量化を計った。

もしもの時に備え、飯豊連峰合宿の際に使用するつもりであった、ソーヤーのスクイーズフィルターと 1L パウチを今回も持参した。

長期山行であれば、乾燥剤や折りたたみ傘、ハンギンネット(今回は細引きで無理やり作った)が団体装備であれば便利だなと感じた。

あとは、バーナーシートは木がやっぱり使いやすいなと感じた。安定感が違う。

<地図>

2 万 5 千分の 1 地形図 「長坂上条」「甲斐駒ヶ岳」「鳳凰山」「仙丈ヶ岳」「夜叉神峠」「間ノ岳」「塩見岳」「信濃大河原」「赤石岳」「大沢岳」「上河内岳」「光岳(てかりだけ)」「池口岳」

エスケープルートの分も含め、以上13枚を今回使用した。

<資料>

- ・昭文社 山と高原地図 「北岳・甲斐駒」「塩見・赤石・聖岳」2016年版
- ・山と溪谷社 ヤマケイアルペンガイド10 南アルプス
- ・樫出版社 PEAKS 特別編集南アルプス詳細ルートガイド
- ・山と溪谷社 大きな地図で見やすいガイド 南アルプス・中央アルプス
- ・山と溪谷社 山登りABC もっと登れる山の食料計画
- ・國學院大學体育連合会ワンダーフォーゲル部【個人山行】南アルプス全山縦走行動記録
【<http://kgiwv.jugem.jp/?eid=168>】
- ・東京北稜山岳会創立60周年記念山行：南アルプス縦走記録
【<http://www.hokuryo.org/archives/2313>】
- ・明治大学体育会山岳部2015年度 夏山合宿(8/9-8/23)
【<http://mualpine.xsrv.jp/%E5%B1%B1%E8%A1%8C%E8%A8%98%E9%8C%B2-3/2005%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%B1%B1%E8%A1%8C%E8%A8%98%E9%8C%B2-2/2015%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E5%A4%8F%E5%B1%B1%E5%90%88%E5%AE%BF%EF%BC%8889-823%EF%BC%89/>】
- ・ヤマレコ 長期テント泊縦走時の持参食料
【<http://www.yamareco.com/modules/yamanote/detail.php?nid=97>】
- ・立命ワンゲル1991年、2005年夏合宿南アルプスParty行動記録

<費用>

- ・青春18切符一回分(個人購入)
 - ・大井川鉄道(金谷～千頭)：1810円/1人
 - ・千頭駅～赤石温泉白樺荘ジャンボタクシー4370円/1人(四人で17000円)
 - ・赤石温泉白樺荘宿泊料金4110円/1人(素泊まり)
 - ・テニ場代合計7700円
(予備テニ場代：5000円+トイレ代：2000円)
 - ・山梨交通バス代：1420円/1人=1420円/1人
 - ・帰路普通電車代(甲府～京都)：6800円
- =合計26220円(青春18切符代は除く)
予備金10000～20000円

<行動記録>

※記録には書いていないが、1～2分ほどのレイヤリングや水分補給の小休止を一日

辺り約3回ほどは行っている。

9/7

「アプローチ」 天気：曇り

琵琶湖線新快速/米原行→米原駅(08:30着 08:33発)→東海道本線/東海/大垣行→大垣駅(09:05着 09:11発)→東海道本線/東海/新快速/豊橋行→豊橋駅(10:37着 10:42発)→東海道本線/東海/浜松行→浜松駅(11:16着 11:28発)→東海道本線/東海/興津行→金谷駅(12:08着 12:19発)→大井川本線/列車番号9/千頭行→千頭駅(13:31着)→大鉄ジャンボタクシー利用→南アルプス赤石温泉 白樺荘(15:30着)(C0)→20:00 装備チェック・ミーティング→21:00 就寝

河田の荷物が42kgと重く移動に苦勞したが、乗り換えは割とスムーズに進んだ。
白樺荘のご主人も大鉄タクシーの方も皆親切だった。
白樺荘の飯は激烈に美味しいので是非食べて欲しい。
装備チェックでは一回生と二回生に不備が多々見られたので反省して欲しい。

9/8

「第一行程目」 天気：大雨のち雨ときどき曇り

05:00 起床→南アルプス赤石温泉 白樺荘(06:30発)→茶臼岳登山口(07:15着 07:30発)→ヤレヤレ峠(08:04着 08:10発)→08:58 休憩→09:05 発→ウソッコ沢小屋(09:19着)→中ノ段(10:22着 10:30発)→横窪沢小屋(11:07着 11:20発)→倒木ベンチ(12:51着 13:00発)→樺ノ段(14:24着)→茶臼小屋(15:03着)(C1)→18:30 夕食→20:00 ミーティング→20:30 就寝

急登が続き、土砂降りと重荷も相まってペースは上がらなかった。
隊列はトップ河田、PL松岡、亀坂、ラストSL栗原という特殊な隊列で今後ほとんどの行程をこなしたが亀坂が著しく遅れ2パーティの様相を呈していたので、喝を入れた。大吊り橋以降の川の増水は懸念していたほどではなく、落なければまったく大丈夫そうだった。
ゲイターに山ヒルが何匹か張り付いていたので、注意が必要であろう。
ルートに迷いやすい箇所はない、読図も平易である。
横窪沢小屋の水場は、営業期間外は使えないようだったが、すぐ下に沢があるので、ガスが多ければ煮沸し、浄水器があれば、何の問題もないように感じた。
茶臼小屋では書ききれないほどお世話になり本当によくしてもらった。
お礼参りをしなければなるまいと、その場で来年のプレ夏は南アルプス南部縦走に決まった。

まさしく怠慢であるが、天気は詳しく教えてもらったので、この日は天気図は書かなかった。

亀坂と河田の疲労が著しかったので、翌日光岳小屋まで行き幕営するのをやめ、易老岳ピストンに変更することとした。

残念であったが、これもパーティのレベルなので仕方あるまい。

翌日以降の行程に不安を残し就寝した。

9/9

「第二行程目」 天気：快晴

03:45 起床→04:10 朝食→茶臼小屋(05:10 発)→仁田池(06:03 発)→仁田岳(06:48)→易老岳(08:44)→希望峰(10:28 発)→仁田池(10:45)→茶臼岳(11:15 着 11:28 発)→茶臼小屋(11:35 着) (C2)→13:00 昼食→18:00 夕食→19:00 ミーティング→20:00 就寝

この日は晴れ。易老岳ピストンという大したことのない行程だったが、亀坂のペースは上がらない。ちよくちよく喝を入れながら歩いた。

ここもルート上わかりにくいところはないが、ハイマツ帯を漕ぐ際は雨具のズボンだけはいておけば、濡れずに済んだなあと感じた。

途中、大学生のパーティとすれ違ったが、どこ大だったのだろうか？

小屋に戻ると、ご主人が昨日同様バナナをくれた。ありがたい。

せっかくの晴れ間だったので、あらゆるを干しまくっていると、東北大山岳部のパーティが3人で畑薙から上がってきた。

亀坂が先日の研修で一緒にトランプをした二回生がいた上に、春山で自分は東北大山岳部の千田くんと同じパーティだったので、偶然だとお互い驚きつつ、河田の荷が重すぎたので、パウチを四袋あげた。

東北大は南部を縦走するらしい。荷物は25kgでこっちの荷物の重さを伝えると、おったまげていた。

工夫が足りないのか、単純に我々がアホなのかとちょっと悲しくなった。

濡れたものはあらかじめ乾いたので、満足して寝た。

9/10

「第三行程目」 天気：晴れのち霧

05:15 起床→06:00 朝食→茶臼小屋(07:00 発)→草原(07:46 着 07:51 発)→08:26 休憩→08:31 発→上河内岳の肩(09:05 着 09:20 発)→南岳(10:00 着)→聖平小屋(10:45 着) (C3)→13:00 昼食→17:00 夕食→18:00 ミーティング→19:00 就寝

この日も天気は良かった。

すれ違いもまったくなく、上河内岳のカッコヨサには心打たれた。

あんなカッコイイ山は他にない。衝撃だった。

途中、亀坂が斜面を滑落しそうになったので、注意と喝を入れる。

(亀坂はザックの重さに耐え切れず、肩を揺さぶる癖があるので、それで体が徐々に右に傾き足を滑らせたようだった。)

SL栗原もただぼーっと見ていただけだったので、なぜ声掛けをしないのかと注意した。

危険箇所は、南岳までぐらいであるが、一人ずつ通過すれば、大したものではない。

聖平に河田と自分だけ早く着いたので、ウェルカムフルーツポンチをたらふくもらった後、亀坂と栗原を迎えに行った。(小屋のご主人の娘さんは立命館大学出身らしく、ここでもよくしてもらった。南部は本当にいい山域だ。)

亀坂と合流した後、亀坂のザックを栗原が背負い、自分が栗原のザックを背負、亀坂を空身にした後、小屋まで三人でダッシュした。

小屋についたあとは、昼食の準備を河田と栗原がしている間に、亀坂に荷物整理とパッキングの重要性を教えるために、全部荷物をだし、パッキンをやり直させた。

9/11

「第四行程目」 天気：曇りときどき晴れ

04:30 起床→05:00 朝食→聖平小屋(06:00 発)→小聖手前(07:10 着 07:20 発)→前聖(08:26 着 08:50 発)→聖兎のコル(10:06 着 10:36 発)→兎岳避難小屋分岐(11:15 着 11:38 発)→小兎岳(12:33 着 12:43 発)→中盛丸山(13:28 着)→百間洞下降点(14:00 着 14:10 発)→百間洞山の家(14:47 着) (C4)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

この日も比較的天気がマシ。

ツアー客が大量にいたので、ザレ場でのスレ違いを心配したが、ご来光をみるためにかなり早く出発していたみたいで、安心した。

亀坂は予想通り遅れる。距離が離れすぎないように注意しながら進む。

ガレ場慣れ、ザレ場慣れも足りていないようだったので、訓練が必要だと感じた。

兎岳避難小屋を越えたあとは、一日後に入山してきたはずの、東北大山岳部に追いつかれ、亀坂に苛立ちを覚えながら、先を急いだ。

危険箇所は大したことはないが、中盛丸山頂上直下ぐらいであろうか？

百間洞で台風の動向に注意しつつ天気図を書いた。

9/12

「第五行程目」 天気：曇りのち雨

05:00 起床→06:00 朝食→百間洞山の家(06:30 着)→百間平(07:16 着)→07:24 休憩→
07:30 発→08:00 休憩→08:05 発→赤石岳山荘(09:08 着 10:00 発)→小赤石岳(10:37 着)
→荒川小屋(11:58 着)(C5)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→
18:30 就寝

東北大山岳部にまでもや亀坂のせいであっさり抜かれる。もう競争は諦め、亀坂のペースに今日は合わせることにした。

赤石岳避難小屋では名物おかみのちえこさんが紅茶にチョコを振舞ってくれた上に、ハーモニカを演奏してくださった。

5日ぶりの音楽は心に染みだが、なぜ悲しい米兵の歌をチョイスされたのかは分からない。

荒川小屋までの道のりで亀坂が二回転んでいたが、途中で抜いた東北大にもう追いつかれまいとこの日は頑張っていた。(しかし、後ろに栗原がいないと頑張るのは、お前が甘えているからだと厳しく注意した。)

荒川小屋に着くなり、自分たちが載ったPEAKSを発見。テンションが上がる。

トイレも綺麗で、非常に整理されたテント場だった。

小屋のご主人も気さくで応援してくださった。

何度も言うが、南部は本当に素晴らしい山域である。

9/13

「第六行程目」 天気：暴風雨のち雨

04:30 起床→05:00 朝食→荒川小屋(05:40 発)→標柱(06:19 着 06:25 発)→中岳避難小屋(07:32 着 08:00 発)→森林限界(09:28 着)→小広場(09:57 着 10:10 発)→高山裏避難小屋(11:30 着)(C6)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

早朝は雨が弱かったが、歩き始めるなり、暴風雨が吹き荒れていた。

自分以外のメンバーは全員かなりビビってげんなりしていたが、自分は経験したことのあるレベルであったし、徹底的にパーティ管理を行ったので、亀坂が遅れていた以外問題はなかった。

東北大山岳部は停滞するようだった。

中岳避難小屋でしばらく休憩したのち、このまま進むことを栗原と決定し、前岳以降の危険箇所にはガスの中、コンパスで慎重にベアリングしながら進んだ。

栗原が途中、滑落しそうになっていたが、腰をすぐに落としたため右足が滑っただけで済んだ。

声かけ、アドバイスは後輩に対しては頻繁に行っていたが、同期に対する配慮は足りて

いなかったと思い、猛省している。

途中、亀坂が、何度も滑っていたが、喝を入れて歩かせる。

(自分も一度水たまりを避けようとコケたしまったので、あまり人のことは言えないのだが・・・それにしても先輩がこけてもまったく助けに来ない後輩はいかかなものかと思ったが、それが自分の人望なのだと悟ると、少し悲しくなった。)

避難小屋に着くと、一人で縦走している熊本大探検部の2回生と出会った。夏山研修で、熊本大探検部の人がいた話をすると、今回はその先輩がドタキャンしたせいで一人で縦走する羽目になったという。これまた偶然だ。世界は狭いなあと感じつつ、南アルプス南部は大学生ぐらいしか縦走しないのかと少し不思議に思った。

9/14

「第七行程目」 天気：雨のち曇り

05:00 起床→05:30 朝食→06:30 出発準備完了・様子見→高山裏避難小屋(08:20 発)→板屋岳(09:19 着 09:25 発)→11:01 休憩→11:11 発→30分→小河内岳(11:43 着 11:55 発)→烏帽子岳(13:25 発)→三伏峠小屋(14:02 着)(C7)→16:00 天気図作製→17:45 夕食→19:30 ミーティング→20:00 就寝

朝少し様子見をし、上がってくる東北大山岳部と少し会話した。

昨夕から小屋にいたのは後で知ったが、東工大ワングルだった。

同じく全山縦走南下を行っていたようである。

研修でも上の班で行くだけはあると、やっぱり強いなと感じた。

特筆することはなかったが、三伏峠小屋のアルバイトの態度が悪かったので、イライラした。

観光で縦走している韓国人の軍人さんらしきパーティから韓国で軍人用で普及しているビビンバのアルファ米を2袋いただいた。拙い英語で説明されたが、コリアンスタイルのビビンバと一般的なビビンバの二種類という意味らしかった。(もちろん東北大ももらっていた。)

辛かったが、最高にうまかった。

朝鮮語を専攻している亀坂に説明を読んでもらい、河田に韓国の山事情のうんちくを聞きながら食べた。

水を汲みに行く中で、東北大の子とさらに亀坂が仲良くなったようだった。

人の温かみが南アルプス南部は非常に感じられる。

この頃にはもう南アルプスが過去最高の山だと思うようになっていた。

9/15

「停滞①」

天気：晴れときどき曇り・雨
三伏峠小屋(C8)

翌日の核心・長時間行動に備え、物を乾かし食料管理をするついでに停滞。
東北大山岳部は、予備日がないとのことで、下山していった。
またどこかで会いたい。
昼過ぎに、どこの大学かは分からないが、大学生のパーティが北部から来たらしかった。

9/16

「第八行程目」 天気：曇りときどき雨

03:30 起床→04:00 朝食→三伏峠小屋(04:50 発)→本谷山(05:56 着)→07:05 休憩→07:21 発→塩見小屋(07:50 着)→08:34 休憩→08:40 発→塩見岳西峰(09:00 着 09:10 発)→キャンプ禁止の看板(09:57 着 10:05 発)→10:52 休憩→11:01 発→11:52 休憩→12:05 発→13:02 休憩→13:05 発→熊の平小屋(13:35)(C9)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

昨日の大学生パーティは2時には出発していた。10時間50分行動や一などと言っていたが、どこまで行くのだろうか？と気にはなったが、特に会話することもなかった。この日は長時間行動ということで、かなりビビっていたが、そこまで辛くはなかった。亀坂をトップに据えたおかげかそこまで遅れず、熊の平小屋の遠さにうんざりしながらも何事もなく進んだ。

塩見岳では、ようやく北部かと天気はガスガスだったがかなりテンションが上がった。途中、ルートではないザレ場に明らかにトレースができており、もしかして道迷いか？と思ったが、獣道ということにして先を急いだ。

熊の平小屋では、おじさん二人組と楽しく談笑し、テントを張って、休憩した。小屋のご主人も対応がかなり丁寧で最高だった。

9/17

「第九行程目」 天気：曇りときどき晴れのち雨

05:00 起床→05:30 朝食→熊の平小屋(06:25 発)→06:59 休憩→07:05 発→三峰岳(07:50 着 08:10 発)→間ノ岳(08:38 着)→3055m ピーク(09:02 着 09:12 発)→北岳山荘(09:55 着 10:10 発)→北岳(11:32 着 11:45 発)→白根御池小屋(C10)(12:20 着)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

天気が比較的この日は良かったが、北岳に行くにつれ人が増えていったのにはうんざりした。

南部と北部でこれほどまで人気が違うのかと思ったが、そこそこの強い風でガスもあったのに、テキトーな装備で登っている方が多く見られ、少し不安になった。

三峰岳では、同志社大のワングルのパーティと出会った。

夏山研修に同じく行っていた女の子に亀坂がデレデレしているのに異常な嫌悪感を抱きつつ、散々ペースを乱しておきながらこいつのこの鼻の下の伸び具合はなんだと亀坂に腹が立ったので、間ノ岳までの道をかなり飛ばした。(既にご存知かと思いますが、僕は短気です。)

天気図から明日も天候が思わしくない予報だったので、北岳肩ノ小屋では泊まらず、白根御池まで下ることにした。

途中、靴ズレの応急処置で休んでしまったが、特に大きく問題点はなかった。

白根御池もよく整備されていて対応も丁寧で良かった。

高校生の合宿と被ったらしく、夜も終始うるさかったが挨拶だけはきっちりしていたので大目に見て何も言わなかった。

夕方、北岳バットレスの登攀を終えた社会人山岳会のパーティらしき姿を見たが、かっこよかった。

9/18

「第十行程目」 天気：曇りときどき雨のち大雨

06:00 起床→06:30 朝食→白根御池小屋(07:40 発)→広河原山荘(09:22 着 09:50 発)→広河原インフォメーションセンター(10:00 着 10:20 発)→野呂川出合(11:51 着 12:00 発)→長衛小屋(13:05 着)(C11)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

この日は下り林道をただ歩くだけなので、楽勝だと思ったが、全行程中、自分には一番辛く感じられた。

アスファルトはやはり歩きたくない。

すれ違うバスの目線が痛かったが、溪流釣の釣り人がたくさんいたので、釣りする人も大変だなあと感じた。

なんとか、長衛小屋につき、さっそくガスを炊いてテント内換気に注意しながら乾かした。

9/19

「停滞②」 天気：曇りときどき雨

長衛小屋(C12)

朝から雨が降ったり止んだりだったので、この日は停滞することに。

思い思いいろんな話をしたりラジオを聴いたりして過ごした。

9/20

「第十一行程目」 天気：曇りときどき雨のち大雨

04:00 起床→04:30 朝食→05:30 出発準備完了・様子見→長衛小屋(07:00 発・デポ)→仙水小屋(07:18 着 07:23 発)→仙水峠(08:03 着)→08:15 休憩→08:25 発→駒津峰(09:04 着 09:10 発)→甲斐駒ヶ岳(10:05 着 10:25 発)→駒津峰(11:20 着 11:30 発)→仙水峠(12:08 着)→30分→仙水小屋(11:10 着)→長衛小屋(12:50 着) (C13)→13:30 昼食→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

昨日出会った九州の山岳会のおじいさんにスタバのコーヒーやら色々もらった。話を聞くと、マッキンリーも登ったことがあるらしいすごい人だった。そういう所を聞かれなければ、自分から言わないかっこよさに惚れつつ宝満山で山小屋の管理もしているから来てくれと言われたので、来年行くことにした、行程中、なんどもフライのジッパーを噛ませ注意を受けていた河田がついにフライのジッパーを壊したので、反省の意味も込めて、一番登りたがっていた河田は甲斐駒には登らせないことにした。相当河田は落ち込んでいたが、山では物は神様である。肝に銘じて欲しい。いい教訓になったことだろう。甲斐駒では行きも帰りも直登ルートを選択したが、仙水小屋までの沢の増水以外は特に危険は感じなかった。鋸岳への憧れを山頂で叫びつつ、ガスの中慎重に下った。途中、自分がシャリバテしてしまったのは反省点であった。食料を取るタイミングをもっと考える事にする。

9/21

「第十二行程目」 天気：曇りときどき雨のち大雨

04:00 起床→04:30 朝食→05:00 出発準備完了・様子見→長衛小屋(08:00 発・デポ)→08:54 休憩→09:01 発→馬の背ヒュッテ(10:00 着 10:10 発)→仙丈小屋(10:42 着)→仙丈ヶ岳(10:59 着 11:15 発)→馬の背ヒュッテ(12:14 着 12:20 発)→長衛小屋(13:21 着) (C14)→16:00 天気図作製→18:15 夕食→19:00 ミーティング→20:00 就寝

この日も天気は悪かったが、仙丈を目指すことに。沢の増水以外は特に危険箇所はなかった。山頂直下でまたまた九州のおじいさんとすれ違い、帰ったら甘いもんあるからまたおいでと言われ、皆テンションが上がる。しかし、いざ帰ってみると、おじいさんの姿が見えない。

不思議に思いつつ、壊れたフライを開けると置き手紙と大量のまんじゅうが差し入れされていた。

どうやらバスが動いた為そのまま下山したらしかった。

なんとカッコイイのかと、しばらく自分は呆然としてしまった。

こういう深みのある山屋になりたいものである。

来年、九州の山に行くこともその場で決定した。(亀坂がずっと行きたがっていたのでちょうどいい。)

9/22

「第十三行程目」 天気：曇りのち大雨

04:00 起床→04:30 朝食→長衛小屋(05:35 発)→06:29 休憩→06:34 発→07:15 休憩→07:25 発→アサヨ峰(08:36 着 08:44 発)→09:39 休憩→09:47 発→10:26 早川尾根小屋(C15)→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 ミーティング→18:30 就寝

この日は昼から天気が悪くなりそうだったので、早めに出発した。

アサヨ峰からさっそく土砂降りでも風も強くなりガスガスの山は早いという良い勉強になった。

危険箇所はないが、ガレ場が滑りやすく注意が必要。

早川尾根小屋に行く途中で、河田が岩に滑り滑落したが、藪で止まったので良かった。声かけは行っていたが、防ぎきれなかった。

先輩として猛省している。

特に打撲や折れた箇所もなかったなので、そのまま進む。

小屋には管理人さんはいなかった。

明治大の記録では水場が近くにあるはずだったが、見当たらなかった。仕方なく産廃のシンクに溜まったボウフラだらけの水を浄水して汲む。

しばらく探していると、大雨で雨水なのか沢水なのかよくわからない水流があったので、とりあえず浄水してこれも汲んだ。

ガスを炊いて、乾かし、この日は就寝した。

9/23

「停滞③」 天気：大雨のち曇り・風強し

早川尾根小屋(C16)

精神的にも参っている上に風も強いので、この日は停滞。

夢で鳳凰三山に行けずにくやしくて泣いている自分がいた。少し気持ちを持ち直しやる気がみなぎった。

各々先に進みたい気持ちをこらえつつ、耐えた。

9/24

「第十四行程目」 天気：曇りときどき晴れのち雨

04:00 起床→04:30 朝食→早川尾根小屋(05:20 発)→06:03 休憩→06:10 発→白鳳峠(06:46 着 06:55 発)→07:37 休憩→07:47 発→高嶺(07:58 着 08:00 発)→地藏岳(08:38 着 09:00 発)→09:22 休憩→09:32 発→観音岳(10:04 着 10:13 発)→砂払岳(10:40 着 10:55 発)→南御室小屋(11:32 着) (C17)→13:00 昼食→16:00 天気図作製→17:00 夕食→18:00 就寝

4時起床に変更になったことを亀坂と河田に伝え忘れていたので、3時半に起きていたようだった。

申し訳ないことをした。

地藏岳まで、またもや亀坂が遅れる。

自分から待ってくれとも言わないので、ついに呆れ、おいていくと、栗原もろとも、分岐を左に曲がらず観音岳だけの方向へ言ってしまったようで、一向に姿が見えない。

河田に迎えに行かせ、地藏岳で最後の最後で何をやっているんだと二人をこの上なく激しく叱責する。

(このロスのせいでオベリスクに登れなかったのもたまたまベンジしたい。)

二人には休憩させず、先を急ぐ。

薬師岳小屋は改装中だったが、小屋の人が遭難が毎日起きているから気をつけるようにとアドバイスをくれた。

南御室小屋では、小屋のご主人に全山縦走をしていると伝えるとルートを教えてくれと言われ、詳しく説明すると、テン場代をタダにしてくれた。

気前のいいおっちゃんだった。

また来たい。

9/25

「第十五行程目」 天気：晴れ

04:30 起床→05:00 朝食→南御室小屋(06:05 発)→大崖頭山頂上手前(07:10 着 07:18 発)→夜叉神峠小屋(07:50 着 07:52 発)→夜叉神峠バス停(08:10 着)→甲府駅(12:01 発)→塩尻駅(13:30 着 14:50 発)→中津川駅(16:51 着 16:55 発)→金山駅(18:13 着 18:24 発)→米原駅(19:39 着 19:54 発)→南草津駅(20:29 着)→解散

小屋の人にお礼を言い出発。

ついに下山日である。天気も晴れで、富士山も見え、心も晴れ晴れである。

夜叉神峠小屋からはバス停までワングル恒例のダッシュで締めくくった。
河田は走らされ相当イライラしていたようだったが、これもいい経験だろう。
ダッシュのおかげで二本目に乗るつもりだったが始発のバスに乗れたので良かった。
甲府駅でザックをロッカーにしまい、温泉で汚れを落とした。
九州のおっちゃんにお礼と下山の連絡をし、千田さんに東北大に出会ったことを伝え、
帰路についた。
翌日は大学でげんなりしたが、いい山行だった。

<個人の振り返り>

○SL：栗原望

【今回の合宿の個人的感想】

これまでの山行の最長が3泊4日の縦走だったため、1週間の縦走を飛び越して2週間以上の縦走を行うことには正直不安のほうが大きかった。天候不良の影響もあってこれまでで一番1日が長く感じた山行となった。中でも暴風雨に遭いながら気力で行動した中岳-前岳間は自身の経験と技術不足のために大変怖い思いをしながらもなんとか事故なく通過したことは大変印象深かった。また、今回の山行では山小屋の方々や途中で出会ったハイカーの方達のご好意に甘える機会も多く、人の温かみに触れる機会の多かった山行とも言える。終わってみれば、連続した台風の通過によって展望を臨む機会こそ少なかったが、自身の記憶に深く刻む山行とすることができた。

【SLとしての感想】

それぞれに違った事情はあったが、会に所属する部員の中から参加者は4人のみとなった。予備日も消費し結果的に17泊18日の山行を行ったわけだが、縦走中にSLとしての自己の役割を最大限全うすることはできなかった。それは、中岳-前岳間の通過にも表れたように自身の技術不足に起因するところが大きい。自己が余裕を持って通過できる状態でなければ他のメンバーを気遣って危険箇所を通過することはできないということを改めて痛感することとなった。足元がおぼつかないメンバーに対して自身がフォローできるくらいでないと本当の意味でSLとして縦走を終えたとは言えないので今回の自分が考えた反省点を次回以降他のメンバーが挙げないことを目標とすべきだと考えた。

【得られたもの】

今回の山行中、筋力・精神面でのダメージこそあれ体力面ではまったく疲労困憊になることがなかったので2週間以上の山行をやりきったことと自身の体力への自信、頂上を踏むことに固執し過ぎないことの大切さ。

【反省点・今後の課題・課題をどう克服していくか】

全体として声掛けの頻度が少ないので、1人1人が会の担い手としての自覚を持ち、まずは定例会議への積極的参加と自分の意見を持って発言する機会を自分で作ることから始めることが大切。また、経験のない長期山行を行ったことで精神面での弱さを自覚したので、安全にも配慮しつつより自分に対して厳しくあることが今後の課題。

【今後の会に何を期待し、何をすべきと考えるか】

安全意識がまだまだ希薄であることを考えると、より一層の安全意識を持つこと、そして自分にも他人にも厳しい態度が取れる雰囲気作りをすることが必要である。さらにいえば、一部のメンバーに頼る面が大いにあるので、会の運営者としての自覚をみんなが持つためにも「やりたいこととやらなければならないこと」の差を今後みんなが意識することに期待する。

○**装備：亀坂岳広**

【今回の合宿の個人的感想】

今回の南アルプス夏合宿までの私の山行経験は最長で三泊四日の白馬岳だった。そこから今回一気に4倍近くの高さの山行に挑戦した訳だ。そこでまず感じたのは当たり前だが緻密な計画の必要性だった。三泊四日、ましては日帰り登山などでは山行中になにかトラブルが発生してもすぐに下山できる。しかし、二週間の山行ではそうはいかない。決して短い山行の計画はいい加減でも構わないということではないが、長期の山行では事前の計画の重要性がそれらよりも高いということは当然だろう。

また、これも当たり前だが体力、そしてそれをいち早く回復させる能力。これらの必要性も痛感した。直前に参加した国立登山研修所での研修も相まっていかに自分が体力的にへなちょこなのがわかった。

今回の山行での感想は、ほぼこの二つが占める。景色で印象に残っているのは茶臼岳、赤石岳、塩見岳くらいしか無い。天候があまり優れなかったというのもあるが、それだけ自分に余裕がなかったということだとも思う。

【上回生としてどうであったか】

これもまた直前の研修において講師の先生方に繰り返し「リーダーはパーティを常に把握していなければならない。把握するためには余裕がなければいけない。そして気を休める暇など無い。」といわれた。その意味では今回の合宿において私は隙だらけ、かつ余裕が無い状態が多かった。上回生としてはとても不甲斐ない結果に終わってしまったと思う。

【反省点・今後の課題・課題をどう克服していくか】

反省点としては事前の準備が不足だったことに尽きると思う。長期の合宿に備えて体力を増強することも無く、山城の様子も十分に把握しているとは言えず、後半には食べ物が欠乏してくるなど、食料計画もずさんであった。様々な状況の想定、根拠をもった決定、具体的な数字で示す。以上3点を今後の事前の準備には意識したい。現地での技術も大切だが、メンバー全員が計画立案時にこれらを強く意識して欲しい。

【今後の会に何を期待し、何をすべきと考えるか】

自分も含め、今までよりも長期の山行の数を増やしていきたい。日本の国土の7割を占める山だが、それでもそのアプローチには1日近くかかってしまうことが多い。そんな中で一泊二日の山行を行なっても実質山の中にいるのは半日程度ということになる。それを改めて思い「なんてもったいないのか」という気持ちに陥った。わざわざ危険で金がかかる山に行くのは、皆何かしらの目的があるはずだ。至極単純な話だが、長期の山行を行える力量を身に付ければそれだけ山の中に長くいることができる。そういった意味でもこれからは三泊四日以上の上り山も積極的に行なっていきたいし、企画して欲しいと思う。

○食当：河田健志

【今回の合宿の個人的感想】

雨。42kg。滑落。フライ破壊。

南アルプス南部（畑薙～三伏峠小屋）と鳳凰三山（長衛小屋～南御室小屋）ではポイントがない箇所があり、道を間違えていないか不安だった。

体力に余裕がない上、ザックが大きいいため後方を確認するのが難しかった。（だからといって、声かけをしたわけでもないもので、今後の課題である。）

【得られたもの】

多くの課題と長期縦走の経験。

【反省点・今後の課題・課題をどう克服していくか】

・体力面

余裕をもって活動できる時間、距離が短く、ザックの重量が軽い点。

目標；5kmを20分で走れるようにする。

・装備面

団体装備もしくは各個人の装備として所有すべきものが、松岡先輩の個人装備に依存している点。

高校時代に買ったレインウェアで山行に臨んだ点。

改善方法；レインウェアの買い直し

80Lのドライザックで防水したため、装備を取り出しにくかった点。

改善方法；30L以下のスタッフバックまたはドライザックを使ったパッキング。

・知識面

天気図がかけない点。

改善方法；かく練習をする。

【今後の会に何を期待し、何をすべきと考えるか】

ひとりひとりが、今後、会をどうしていきたいか・どんな活動をしたいか、またそれらを実現するために会全体の課題・個人の課題は何なのかを話し合い、共有することが必要だと思った。

〈おわりに〉

2・3回生は全員国立登山研修所の研修に1度以上参加している者ばかりだったので、合宿をとにかく無事に終わらせる自信はあった。

しかし、終わってみれば、そういう自信を打ち砕かれるかのように、様々な問題が起こり判断の連続であったと思う。

(自分の夢は夏期日高山脈全山縦走だが、夢にはまだ程遠い。自分の実力ではあまりにレベルと乖離していると感じた。)

2004年以来の台風上陸回数だったらしく、天候判断が特に弱い当会としてじゃ、非常に充実した経験を皆で積めたことはとても良かったが、やはりまだまだ全てが足りない。(足りているといえば、文学部地理学専攻がメンバーに多いこともあり、読図能力ぐらいのものなのだが・・・)

行程のほとんどが雨で心は萎えたが、食料に十分余裕を持っていたので、そこまで不安は感じなかった。

全山縦走といっても、今回著名な山しか登っていないので、白峰南嶺や鋸岳などのバリエーションも今後、個人なりPWでやりたい。

特に南アルプス南部は魅力的な山だらけであった。

来年は、北アルプス全山縦走か中央アルプス全山縦走を亀坂と河田が主導してやってくれそうなので、期待したい。(就活が終われば、合流したい。)

長期縦走という最も基本的な行為を経験したワンゲルの更なる独創的で熱い計画がドンドン出来上がることを祈りつつ、今回の報告書・行動記録(合ワンVer.)を締めくくりたいと思う。

以上